資料８

令和８年度　市民ワークショップ企画

１．目的

既存計画の評価検証のため、市民アンケートでは把握しきれない市民や事業者の意見を幅広くお聴きするため、市民ワークショップを開催します。

ワークショップでは、各分野の課題やニーズ、将来への思いを把握し、アンケート結果の深掘りや補足を行うとともに、次年度に予定している施策・事業の検討に向けた論点整理や将来像・課題認識の共有を図り、実効性のある産業振興計画の策定につなげます。

２．対象・人数・方法

（１）ターゲット・人数

●対象者は、丹波市内在住・在勤・在学（高校生以上）で各分野に関心のある方。
主に各分野に関心を持つ市民をメインターゲットとしつつ、多様な主体の視点を取り入れるため、各分野の事業者、関係団体、若手起業者・移住者、市内学生等にも参加いただく設計とします（1 回あたり会場 30 名程度）。

●参加については、オンラインでの参加も可能（ZOOM のブレイクアウトルームを利用したオンラインテーブルを設ける予定）。観光分野については、丹波市ふるさと住民登録制度の登録者（関係人口）にも、オンラインでの参加をご案内します。

（２）開催回数

●開催については、各分野共通（商工業・観光業・農林業）のワークショップを計２回開催予定です。

３．開催日時・会場

●日時：（第１回）令和８年９月 18 日（金）18：30～20：30
（第２回）令和８年９月 27 日（日）10：00～12：00

●各回 120 分程度

●会場：春日住民センター　大会議室

４．事前意見募集

●ワークショップ開催に先立ち、「ふらっとたんば」（丹波市ふるさと住民向けプラットフォーム）を活用し、投稿形式による事前意見募集を実施します。

●対象分野：商工業・観光業・農林業

●募集期間：令和８年８月～９月末（ワークショップ開催前に一次取りまとめ）

●収集した意見は、当日プログラムの事務局説明・テーマ提示・当日の資料に活用します。

５．募集方法

●市ホームページや SNS 等で公募を行うとともに、各分野の関係団体を通じて募集を行います。

●丹波市起業家ネットワーク　イーWa！及び一般社団法人丹波青年会議所と連携して、市

内起業家の参加を促進します。

●オンライン参加（ふるさと住民等）については、ふるさと住民登録制度を通じて個別に案内します。

６．プログラム内容

●主なプログラムは下記のとおりです。１グループあたり５～８名程度とし、会場テーブルに加えオンラインテーブルを設けます。なお、各ワークショップの分野ごとのテーマは既存計画の理念や目標から設定し、既存計画の施策等に基づいた議論をしていただきます。下表は夜間の部（18:30 開始）の進行例です。

●ラウンド３では、各テーブルに IC レコーダー等を設置して録音し、休憩時間中に AI による音声データの整理を行い、発表・共有の時間で話し合われた内容を参加者にフィードバックします。

時間	内容
18:00	開場
18:30（10 分）	開会あいさつ・趣旨説明
18:40（10 分）	事務局説明：丹波市産業の現況共有（統計等）／事前収集データにもとづく関心テーマの提示
18:50（５分）	テーマ別グループ分け
18:55（25 分）	ラウンド１：現状・課題に対する意見交換
19:20（25 分）	ラウンド２：課題解決の方向性の検討
19:45（10 分）	休憩（音声データを AI で整理）
19:55（20 分）	ラウンド３：AI 整理結果の提示、結果を踏まえた各グループ感想等
20:15（15 分）	発表・共有
20:30	閉会あいさつ

７．参加促進

（１）丹波マップミッションイベントとの連動

●丹波市商工観光課観光係で実施運営している「丹波マップミッションイベント」の参加者へ景品応募にかかるポイントを付与します。付与されたポイントで、本イベントの景品である「丹のやさい」や「丹のあんバターサンド」などの丹波市特産品詰め合わせや、更にポイントを貯めることで、１万円以上のたんばコイン等の景品へ応募することができます。市民ワークショップへの参加をきっかけに、丹波マップミッションイベントの認知度向上や参加促進につなげることで、市の観光施策との相乗効果を図ります。

（２）観光係オリジナルノベルティの配布

●商工観光課観光係で作成しているオリジナルステッカー、ボールペン等の文房具、クリアファイル、タオルなどを、ワークショップ終了後に参加者へ配布することを予定しています。配布方法については、出口付近において、タブレットを活用したデジタルガチャ又はガチャガチャ本体を使用することを想定しています。

単に参加特典を配布するのではなく、配布方法にエンターテインメント性を持たせることで、ファミリー層をはじめとした幅広い世代に親しみやすい印象を持っていただき、ワークショップへの参加に対する心理的なハードルを下げることを目的としています。

また、募集・周知にあたっても、参加特典を前面に打ち出して参加を促すのではなく、「楽しみながら参加できるワークショップ」という印象を醸成し、参加しやすい雰囲気づくりにつなげたいと考えています。